6-18　実践協力校における授業実践
事例⑱　小田原市立下府中小学校

ポイントになる主な学びのプロセス

- 自分の身の周りのできごとに関心をもつ。
- 様々な考えから、自分の考えを構築する。
- 他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する。

Ⅰ　単元計画

1．単元名　生活単元学習「冬のお楽しみ会をしよう」

2．単元の目標

・冬のお楽しみ会を企画し、学級みんなで楽しめる会にするために考え、実行することができる。

3．単元の指導計画（13 時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1 2	◇冬のお楽しみ会で何がしたいか考え、決めることができる。 ◆樹形図を使ってイメージを膨らませながら、冬のお楽しみ会でやりたいことを考える。 ◆出てきた意見からお楽しみ会で何をやるか決める。 ◆担当するものを決める。（調理担当、プレゼント担当、ツリーとリース担当）
3	◇それぞれの担当するものの作り方を調べ、提案するための準備ができる。 ◆学習用端末を使ってそれぞれの担当するものの作り方を調べる。 ◆作り方などを画用紙に書き、提案するための準備をする。
4	◇さつまいも蒸しケーキとチーズ芋餅の作り方を知り、自分がやりたい分担を考えることができる。 ◆コロナ対策を考慮に入れた作り方を考える。 ◆他学年を含めた役割分担を考える。
5	◇サンタ役の児童がプレゼントを渡す計画とリース作りについて知り、どのように作るか考えることができる。 ◆リース作りに必要な物を知り、使いたい材料などを考える。 ◆サンタ役の児童が渡す手作りプレゼントの計画について知り、どのように作るか考える。
6 本時	◇段ボールツリーの作り方を知り、自分がやりたい分担を考えることができる。 ◆段ボールツリーの作り方を知り、役割分担を考える。
7 8	◇段ボールツリーを作る。 ◆段ボールに下書きをして切り取る。色を塗る。組み立てる。 ◆ツリーの飾りを作り、ツリーに飾る。
9	◇お楽しみ会で必要なものを買うために買い物学習へ出かける。 ◆買い物の手順やマナーを学ぶ。 ◆道路を歩くときのマナーを学ぶ。
10	◇さつまいものつるを使ってリースを作る。 ◆事前に作っておいたリースの土台にグルーガンを使って飾りをつける。
11 12 13	◇冬のお楽しみ会をする。 ◇調理実習でさつまいも蒸しケーキとチーズ芋餅を作ってクラスのみんなと一緒に食べる。 ◆お楽しみ会の準備をする。 ◆さつまいも蒸しケーキとチーズ芋餅を作る。 ◆一人ひとり、自分のケーキにのせるトッピングを選び、ケーキにのせていく。 ◆みんなでケーキを食べる。 ◆サンタ役の児童がプレゼントを渡す。 ◆片付けをする。

Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　〇段ボールツリーの作り方を知り、自分がやりたい分担を考えることができる。

２．本時の展開

「政治的教養を育む教育」の身に付けさせたい力の視点

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	①学習課題と一人ひとりのめあてを確認する。 ＊見て確認できるように、全体のめあてと一人ひとりのめあてを掲示しておく。 【全体のめあて】　段ボールツリーの作り方を知り、自分がやりたい分担を考えることができる。	
展開	②ツリー担当の児童が段ボールツリーの作り方を説明する。 ＊作り方を写真やイラストで掲示する。 ・作り方を参考に、自分がどの役割をやりたいのか、考えるようにする。 ＜授業中の発言＞ １Ａ：「飾り付けがいい。楽しそうだから。」 ６Ｂ：「人気がなさそうなものをやるよ。」 ６Ｃ：「１年生が選ばなさそうなものをやるよ。」 ６Ｄ：「１年生は段ボールを切るのは難しいだろうから、切る係は僕がやるよ。」 ③役割分担を話し合う。 ＊自分の思いをもつ時間を十分にとり、ワークシートに書くことができているか確認する。	自分の考えを構築し、発表する。 友だちの考えを聞き、自分との共通点や違いなど、いろいろな意見があることに気付くことができる。 他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する。
終末	④振り返る ＊できたかどうか確認する。がんばったところは何か聞く。 ・全体のめあてと自分のめあての振り返りを順番に発表する。一人ひとりのめあてに対し、自己評価を発表するとともに、クラスの友だちから、よかった点や頑張った点を伝える。 ⑤次時について確認する。 ツリー作りに入ることを伝える。	**目指す子どもの姿** ・自分の考えと向き合い、話し合いを通して感じたことを基に、自分の思いを深めている姿。

Ⅲ　政治的教養を育むための支援のポイント

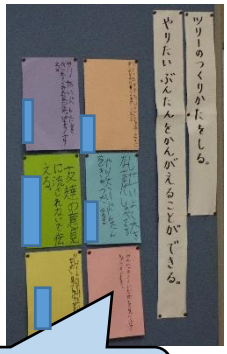
ポイント1

自己評価と友だちから認めてもらえる機会をつくりましょう。

自分の考えや意見をみんなの前で言うことは、とても勇気がいることです。特に敏感に周りの状況を察知する児童の場合、「みんなにどう思われるだろう」と不安になってしまうこともあります。

みんなに認められ、認められていると実感するために、周りの友だちが「認めてくれている」という実感がもてるような機会を増やしましょう。

例えば、授業の振り返りで、自己評価を行うとともに、友だちから評価をもらうようにするなど、たくさんほめることや認めることが大切です。自信を持つことで気持ちが落ち着き、自分の考えを言うことができます。自分の考えが認められる学級集団と落ち着いて思考できる学習環境の整備に努めましょう。



学級の目標と個人の目標が提示され、共有されている

再構築のカギとなる、自分の考えの「理由」を大切にしましょう。　**ポイント2**

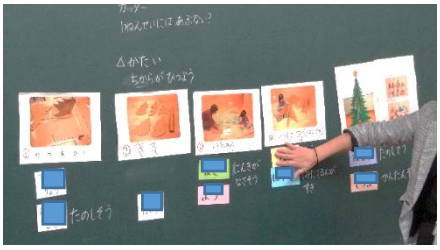
日常的に、自分の考えや意見について、理由を述べられるよう意識して指導しましょう。「私の意見は○○です。なぜかと言うと、、、」というような決まった言い回しから練習することや、言うことが難しい場合には、プリントなどを活用し、事前に自分の意見とその理由を書いて整理してから発表するなどの取組も有効です。

校内の教職員が連携し、事前に学級で自分の意見をまとめておき、発表する準備をしておくことで、どんなときでも理由を明確にして自分の考えや意見を言うことができるようになると考えられます。



しかし、自分の考えや意見を再構築するための理由を考えさせたいときには、理由を考える必然性のある議題を設定することが大切です。

例えば、役割を決めるときに、何をやりたいか理由を伝える場面では、お互いが譲り合えば、話し合いは終わってしまい、再構築することは難しくなりますが、「なぜそのような活動をするのか」を話し合うことで、「○○だからだと思う。理由は…」と、理由を言う場面が自然と出てきます。



また、児童の「賛成・反対」の意見を聞く場面では、少数意見や反対意見を選択した児童の理由を知ることで、それぞれの考えが再構築され、活動がよりよい取組につながることが期待されます。

話し合いの議題は、「よりよく生活（行動）するために何が大切か」を考えさせるテーマを設定し、それぞれの意見やその理由を知ることで合意形成をはかり、自分の意見を再構築していくことが重要です。

Ⅳ　研究協議

１．自評

段ボールツリーの制作にあたり、自分がやりたい分担を考え、伝えることが難しかった。前時の授業では、「どんなふうに飾り付けをしようか」や、「この方が素敵に飾れるよ」といったようなやり取りが交わされていた。しかし、いつもと違う（人が周りに多くいる等の）環境では、ストレスがかかったり、緊張してしまったりする様子が見られ、そのような状況で児童の意見や考え、理由を語らせることが難しいということを実感した。

２．研究協議のテーマ　＊令和３年度は共通テーマで協議を実施。

○提案授業の児童の姿から、「小・中学校における政治的教養を育む教育」で大切にしたい学習活動（学びのプロセス）は、効果的に取り入れられていたといえるか。

※自己選択した児童がもつ、「理由」について考える。

３．研究協議の成果と課題

成果・６年生は「段ボールを切るのは大変だから、ぼくがやるよ。」と１年生のことを考えながら、自分の役割を決めていた。周りの人のことを思いやったり、相手の立場になって考えたりすることができていた。「おりあいをつける」（＝合意形成ができている）状態であったと言える状況だった。

課題・今回の授業の中で、「理由」を考える場面に課題があった。児童にとって、「やりたい作業を選択した理由」ではなく、「なぜそのような活動をするか」「どうやって活動をすすめるのか」といった、自分たちが行う活動は何のために、どのような方法で行うことがよいか、という理由を考えることが重要であった。